
特 集

わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究（その1）

特集によせて

石 井 太

本特集は、「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成23～25年度）において行われた研究の成果の一部を研究論文にまとめたものを掲載するものである。

わが国の平均寿命は20世紀後半に著しい伸長を遂げ、現在、世界有数の長寿国として国際的に見てもトップクラスの水準を誇っている。そして、「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によれば、平均寿命は2060年には男性84.19年、女性90.93年（死亡中位仮定）に達すると推計されており、今後も長寿のフロントランナーとして走り続けるものと見込まれる。本研究プロジェクトは、このような世界にも類を見ない長寿化のメカニズムと背景を探るとともにその影響を捉えることに挑むものである。

本プロジェクトの中核を成すのが、わが国の生命表を人口分析の目的から総合的に再編成した、初の試みである「日本版死亡データベース（Japanese Mortality Database）」の構築である。これは、国際的な死亡データベース Human Mortality Database (HMD) の生命表推計手法をレビュー・再現するとともに、わが国の死亡状況に適合させるための新たな手法を開発し、HMD と整合性を持ちつつ日本の死亡状況をよりよく表現する生命表推定手法を研究・開発するものであり、本プロジェクトの成果として、全国版は1947年以降の各年・各歳の生命表、都道府県別は1975年以降の5年・5歳階級の生命表が作成され、研究所のウェブサイトを通じて世界の死亡研究者に向けて提供が行われている。

一方、わが国の人口学研究においてさらなる発展が期待される分野の一つとして、健康と長寿の関連研究が挙げられる。本研究プロジェクトにおいても、健康生命表分析を中心としながら、長寿化によって長期化した高齢期における生存の質の評価という課題に挑戦してきた。さらに、長寿化に関し多角的かつ学際的なアプローチに基づく研究を行う観点から、広域的な死亡研究ネットワークの構築を目指し、政策担当者や民間アクチュアリーなどの実務担当者を加えた研究会による討論や、日本人口学会の大会において「寿命・健康研究の複合的展開」、「アクチュアリーと人口学」というプロジェクト関係者を中心とした企画セッションを開催するなど、有機的な研究活動を展開してきた。このようなこれまでにない新たな形態での連携を通じて、わが国の長寿・健康に関する総合的な知見を集積するとともに、それらの政策・実務への応用可能性を高めることができたのも本プロジェ

クトの一つの特色といえよう。

本特集では、このような研究プロジェクトの成果の中から、日本版死亡データベースの構築や患者調査の受療状態を用いた健康寿命の評価などに関する論文の掲載を予定している。本特集を通じて、前人未踏の領域に進み続ける、わが国の未曾有の長寿化の解明に挑む死亡研究の挑戦の一端が伝わること、またそのチャレンジに一人でも多くの研究者が加わってわが国の死亡研究が益々活性化することを望むものである。